



米子市福市考古資料館通信

第19号

2025年12月



企画展示「米蔵が見つかった！ 米子城跡三の丸の発掘調査」を開催します

米子市福市考古資料館では、令和8年2月11日(水)から3月30日(月)まで、冬季企画展「米蔵が見つかった！米子城跡三の丸の発掘調査」を開催いたします。

国史跡米子城跡の三の丸は、江戸時代の後期に作成された絵図では、たくさんの中蔵が建ち並んでいる様子が描かれています。令和3年度に実施された三の丸の発掘調査では、実際に巨大な中蔵の基礎が見つかったことから、絵図に描かれたとおり、中蔵が建ち並んでいたことが明らかとなりました。また、中蔵が建っていた地面の下からは、江戸時代前期にまで遡る石組の水路が見つかりました。この水路は、二の丸の高石垣の下から内堀まで伸びる排水溝と思われますが、水路の底面にはていねいに割石が敷き詰められていました。

今回の企画展では、発掘調査で明らかとなった米子城跡三の丸の遺構や遺物を紹介します。

福市考古資料館の開館時間は、午前9時から午後5時まで(最終入館は午後4時30分)。

閉館日は、毎週火曜日と2月12日(木)、25日(水)、3月23日(水)です。入館料は、無料ですので、この機会にぜひご鑑賞下さい。

また、3月8日(日)には、米子市文化ホール研修室にて、三の丸発掘調査の成果を報告する講演会も予定しています。

講演会は、席に限りがありますので、事前に申し込みをお願いします。

講演会の申し込みは、「米子市埋蔵文化財センター」まで、電話0859-26-0455にお願いいたします。



三の丸から見つかった石組水路

青木遺跡から出土した石製納骨容器

国史跡福市遺跡の片隅に、一棟の古びたコンクリート建物があります。これは、福市考古資料館が建てられた昭和55年に、資料館と合わせて整備された遺物収蔵庫です。

この収蔵庫の入り口に、一抱えもほどもある大きな石造物が置かれていることを知る人はほとんどいません。

この石は、昭和49年に実施された青木遺跡D地区の発掘調査で出土したもので、楕円形の自然石を加工して、中央に方形の孔を開けたものです。石材の長さは64cm、幅53cm、厚さ25cmで、中央の孔は一邊25cm、高さ4cmの出っ張りを造り、その中に一邊15cm、深さ10cmの孔を開けています。おそらく、この石の上に同じように四角い孔を開けた蓋石が置かれていたと考えられますが、発掘調査時には、すでに蓋石は失われていました。

この孔を持つ石は、火葬した人骨を墓に納めるために造られた、納骨容器と考えられます。鳥取県内では、文武天皇に仕えた伊福吉部徳足比売(いふきべのとこたりひめ)の火葬骨を収めた銅製蔵骨器の外容器に大型の石をくり抜いたものが使用されていますが、それ以外では、ほとんど類例がありません。

現在は倉庫の軒下に置かれていますが、いずれは、雨がかかるない場所に屋外展示できればと考えています。



石製納骨容器の出土状況



現在の保管状況

発行日	令和7年12月26日
発行者	米子市福市考古資料館
指定管理者	一般財団法人 米子市文化財団
住所	〒683-0011 米子市福市461-20番地
電話・FAX	0859-26-3784
休館日	火曜日・祝祭日の翌日・年末年始(12月29日~1月3日)